



薬小っ子スタンダード
当たり前のことを
当たり前に行ける子に

薬師寺小だより

平成30年 3月
下野市立
薬師寺小学校長
鈴木 一恵



家族のための
お手伝い

やさしく



家族との会話

かしこく



家族と一緒に
正しい食習慣

たくましく

卒業式



校庭の桜のつぼみも膨らみ始め、進級を目前にした子ども達が楽しそうに遊んでいます。6年生にとってはこの校庭で遊ぶのもあと少しとなりました。

3月20日に卒業式が挙行されます。47名の卒業生が思い出を胸に薬小を巣立ちます。児童も職員も卒業生への感謝と惜別の思いで毎日を過ごしています。

保護者の皆様におかれましても、立派に御成長された姿を誇らしく見つめていらっしゃるでしょう。これまで本校の教育活動に深い御理解と温かい御支援御協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

輝く中学校生活に向けて (卒業文集に寄せて)

創立144年という歴史を刻む薬師寺小学校を卒業し中学生となる皆さん、御卒業おめでとうございます。ピカピカのランドセルを背負って入学してから六年の月日が流れ、たくさんのお話を学び、心身共に大きく成長しましたね。御家族をはじめ、皆さんを見守って下さった多くの方々もどんなに喜んでくださっていることでしょう。

私と皆さんとの出会いは5年生からですが、皆さんの姿を一言で表すとしたら「優しさ」という言葉が一番ふさわしいとずっと思っていました。

「優しさ」の意味には「他人に対して思いやりがあり、情が細やか」や「素直でしとやか、穏和で好ましい感じ」、さらに「控え目に振る舞い、つつましか、殊勝でけなげ、りっぱ」などの意味があります。(「大辞泉」小学館より)

これらの意味と照らし合わせてみると、本校の高学年として立派に活躍された皆さんの姿がいくつも思い出されます。

登校班や清掃班、なかよし班では下級生に優しく言葉を掛けたり褒めたりしていましたね。教室では素直な気持ちで友達を思いやりながら穏やかに生活していましたね。授業中は一心に友達の意見に耳を傾けたり、進んで自分の意見を述べたりしながら、共に学び合っていましたね。このような姿の裏には、いつも大きな心で相手を受け止めようとする受容的な優しい心が働いていたのだと思います。

なぜ、皆さんはこんなにも他人を大切にできるのでしょうか。それは「自分自身を大切にできる人」だからです。自分を大切にできない人は他人も大切にできないのです。

では、なぜ、「自分自身を大切にできる人」に育ったのでしょうか。それは、誕生してから今日まで御家族が皆さんを大切に大切に育ててくださったからです。

これからもずっと、大きな愛と優しさであなたたちを守ってくださることでしょう。あなたたちが気付かなくてもいつでも隣を歩いてあげたい…。そんな思いで寄り添い見守ってくださるに違いありません。

なぜ、そうして下さると思いますか。それは、この世に授かった子供の大切な命、そのたったひとつの命が送る、たった一度の人生を自分らしく輝いて生きて欲しいからです。

これから希望に満ちた中学校生活がスタートし、自分の夢

に向かって、一段一段階段を登っていく皆さんには、中学校でしか学べないこと、中学校生活でしかできない体験、中学校時代だからこそ得られる友が待っています。自分も友達も大切にしながら、失敗を恐れることなく、様々なことに挑戦して、輝く中学校生活を送って欲しいと心から願います。

しかし、勉強、部活、友達関係…と活躍の幅が広がるに従って、嬉しいことや楽しいことはばかりが待っているわけではありません。時には、悲しいことや辛いこともあるでしょう。

そのような時の心の糧としてぜひ山本有三作『路傍の石』を手にして下さい。逆境にある少年吾一が誠実に生きていく姿を描いた小説です。何があっても力強く生きて大切に育てていただいた恩返しにつながる中学校生活を送って下さい。

たったひとりしかない自分を
たった一度しかない一生を
ほんとうに生かさなかつたら
人間うまれてきたかいが
ないじゃないか



『路傍の石』(山本有三 作)より

夢を追うお子様にこれからもエールを!

サザンカ

(by SEKAI NO OWARI)

~略~ 誰よりも転んで 誰よりも泣いて
誰よりも君は 立ち上がってきた

僕は知ってるよ
誰よりも君が一番輝いてる瞬間を

夢を追う君へ
思い出して くじけそうなら
いつだって物語の主人公が立ち上がる限り
物語は続くんだ

嬉しいのに涙が溢れるのは
君が歩んできた道のりを知っているから

夢を追う君へ
思い出して つまづいたなら
いつだって物語の主人公は笑われる方だ
人を笑う方じゃない
君なら きっと

NHKの平昌オリンピック・パラリンピック放送テーマソングのために書き下ろされた歌『サザンカ』の一節です。選手への励ましがテーマと言うことですが、「頑張る君を応援する僕」は我が子の成長を見守る親御さんの心と重なるのではないのでしょうか。

サザンカは寒い冬に咲く花、花言葉は「困難に打ち克つ」です。どうぞ夢を追うお子様にエールを送り続けて下さい。

6年生 今の気持ちを表す言葉は・・・

国語「春を待つ冬」の授業より

「つくし」進学したらつくしのように成長したい。努力して今の自分よりも何倍も成長したい。

「ふぶき」進学の不安や楽しみやドキドキがふぶきのように心に降っている。それを打ち消して春のような言葉に変えていきたい。

「雨水」雪が解けて雨水のように変わっていく様子は中学生になる不安に似ている。春を待つ雪のように入学を楽しみに準備したい。

「二色だんご」中学校への不安と楽しみという二色の気持ちが一緒になっている。どちらも上手に食べて楽しい学校生活を送りたい。

ありがとう、さようなら 6年生を送る会

2月27日に「6年生を送る会」が行われました。

5年生の企画運営により6年間の思い出スライドショーや各学年の心のこもった出し物が披露され、全員でありがとうの気持ちを伝えることができました。6年生も特技を発表してくれ、和やかなひとときを過ごしました。

校長あいさつでは、オカリナで「Believe」を演奏し一緒に歌ってもらいました。「Believe」の歌詞は薬小っ子の雰囲気ぴったりなので選びました。その一節です。

たとえば君が傷ついて くじけそうになった時は
かならず僕がそばにいて ささえてあげるよ その肩を
(作詞: 杉本竜一)



1年生 詩の群読
「6年生に送る言葉」



2年生 詩の群読と合奏
「ともだち」「こぎつね」



3年生 合奏とことわざ
「パフ」



4年生 合奏と手話
「ラ・クンパルシータ」
「グッディ グッバイ」



6年生からありがとうの
メッセージ



在校生から手作りメッセ
ジカードのプレゼント

1～5年生は3月23日に修了式を
迎えます。おめでとうございます。

学ぶ楽しさ、分かる喜びが実感できる授業で、
学力向上を進めてきた1年間

担任の先生と子ども達と一緒にねらいを決め、それを解決するために、自分の考えをまとめ、友だちと考えを伝え合い、さらに考えを深めるといふ、対話を通して学ぶ授業、それが本校の授業のスタイルです。それは「学校は学び方を学ぶ所」と考え、子ども達の学習に取り組む動機や主体性、学び合いを大切にしているからです。「楽しい1時間だったな。」「分からなかったことが分かった、できた。」というプラスのイメージの蓄積が子ども達の学力を向上させると信じて取り組んで参りました。どの教室でも活気溢れる授業風景、一生懸命に学ぶ子どもの姿がありました。この成果は、御家庭が学校の呼び掛けに応じて下さり、早寝早起き朝ごはん、家庭学習やノーゲームデー、家読などに御協力下さったからに他なりません。今後もどうぞ宜しくお願い致します。

安全ボランティアの皆様 ありがとうございました

学校安全ボランティアの皆様にお世話になり、児童は毎日無事に登下校することができました。特に6年生は6年間の思い出と感謝の気持ちでいっぱい、正に命の恩人です。



1年

やってはいけないことを「だめだよ。」とやさしくいっててくれてありがとうございました。

2年

あついときもさむいときも「車はこないかな。」といつも見守ってくれました。

3年

赤になった信号の前で車を止めてくれた時はとても驚きました。もし、止めてもらっていなかったら私たちの命は交通事故で消えていたかもしれませんでした。

4年

車が来た時に止めてくれる以外に横断歩道で朝と夕方「おはよう」や「おかえり」を言うので、とてもうれしい気持ちになります。毎日楽しく登下校できました。

5年

2年生の頃、塾に行くために迎えに来てくれるおばあちゃんを待っているとき、ボランティアさんが私に気付いていっしょに待っていてくれました。あのときの事が今でも忘れられません。

5年

春夏秋冬、僕が1年の時から見守って下さり、最後の班の人の後ろから自転車についてきて親切にして下さいました。雨が降っている日でも立っていてくれて、ハイタッチをしてくれるので登下校がとても楽しいです。

6年

登校班の班長になり下級生の安全に登下校させることは大変なことだと思えました。ボランティアの皆さんは毎日私たちの安全を守って下さっていました。命を預かるのと同じです。感謝してもしきれません。

6年

6年間登下校を見守って下さりありがとうございました。ぼくたちは卒業してしましますが新しい1年生を安全に登下校させてあげて下さい。中学校に行ったら登下校は自転車になりますが気を付けて運転したいです。

薬小っ子スタンダード定着を目指して
取り組んできた1年間

薬小っ子スタンダードは3つのたねを児童自ら努力して育て、「当たり前のこと」の習慣化を目指す取り組みです。御家庭の御協力により意識が高まりました。親子で確認してみてください。

やさしく (心のたね)

- ・あいさつ、返事、言葉遣い
- ・くつ揃え
- ・家族のためのお手伝い
- ・自分のことは自分でする

かしこく (頭のたね)

- ・毎日の読書、家庭学習
- ・テレビやゲームの時間を決める
- ・家族との会話、親子読書
- ・地域の行事への参加

たくましく (体のたね)

- ・早寝、早起き、朝ごはん
- ・外遊び、体力作り
- ・家族と一緒に正しい食習慣
- ・安全な登下校